

虚子記念文学館投句特選句

・令和五年六月

稲畑廣太郎 選

六甲の大万緑や嶺々の雨

京都 西村やすし

供華あれば石も仏や木下闇

京都 山崎貴子

満載で出づる宅配梅雨晴間

兵庫 小杉伸一路

何色に咲いても雨を恋ふ四葩

兵庫 小柴智子

信号の色して毛虫横断す

香川 佐藤美沙子

解散の笛や夏帽ぱつと散る

大阪 須知香代子

六甲の稜線潰し梅雨に入る

香川 真鍋孝子

雨に剪る供華は水色額の花

大阪 多田羅紀子

合歓落花三瓶野いかにてふ心

兵庫 辻田あづき

ことごとく鹿の子暮色となりにけり

兵庫 武田奈々

(青少年)

入選句・令和五年六月

つまづきて転びし古希や赫き薔薇	千葉	山崎寿仁	檄の香のかすかに蔵の暗さかな	兵庫	植橋眞美
前哨の飛翔の用意花楓	香川	藤田敦雄	柿の花淘汰に青き筵敷く	大阪	梶田高清
楽聖の運命の霰雨に殖ゆ	三重	松村咲子	雨降らば伸びをしてゐるかたつぶり	奈良	河村久美子
落ちさうでゆれて闇脱ぐ竹の皮	香川	村上美恵	青梅雨にいよよ勢へる草木かな	兵庫	宮本露子
大雨に列車運休五月闇	石川	辰巳昌彦	どくだみに乗つ取られたる庭の隅	大阪	立入宮子
ついで早沛然と雨滔滔と川	兵庫	前田容宏	一晩で水引く梅雨の芦屋川	大阪	谷本房子
ただ雨に濡れるベンチも夏のもの	三重	池本準一	さくらんぼ光の粒も揃へをり	兵庫	塚本武州
のぞくだけ六月の雨昏む庭	香川	三好ようこ	薫風やみな奔放に館の木木	大阪	林 曜子
万緑の杜青空に龍の雲	兵庫	川村ひろみ	虚子館の学はひかり夏木蔭	岡山	石井宏幸
雨男在す六甲男梅雨	香川	原 道子	杜の雨濡らす鹿の子の産毛かな	香川	葛原由起
梅雨に入るJアラートの鳴る朝	兵庫	上岡あきら	飛火野へデビューの近し鹿の子かな	大阪	西尾浩子
椎の香や若気の至り棘のごと	兵庫	齊木富子	黒髪 of 佳人の訃報額の花	徳島	奥村 里
昨日今日明日の色に七変化	兵庫	高野さち	若葉風佳人の句集そつと繰り	兵庫	涌羅由美
亀の首浮き沈みして竹落葉	奈良	山口廣世	俳磚の碧に執せし夏の蝶	鳥取	椋 誠一朗
竹皮を脱ぎ大空へ一目散	大阪	若林友子	思ひ出のドアを開けたる館涼し	鳥取	椋 則子
展けゆく空は水色梅雨晴間	兵庫	奥田好子	師の遺品ならば檄の香美しく	兵庫	玉手のり子
草茂る小径ゆづりて芦屋川	京都	杉森大介	とどまるも行くもひとりや茅花吹く	兵庫	岸川佐江
入梅や梅雨なき蝦夷を恋うてをり	兵庫	森岡喜恵子	鑑真のお厨子開かれ蟾の声	兵庫	辻 桂湖
揚羽蝶天より帰館浜美し	岡山	小幡恒雄	見つからぬうちに捨てなきや檄のパン	兵庫	高橋純子
万緑裡ふと気配あり山頭火	大阪	大橋明子	まだ都会馴れしてをらぬ鳥の子	兵庫	池田雅かず
七坂に挑み音を上ぐ暑さかな	兵庫	柳生清秀	兼題のどくだみ壺に黙禱す	香川	大山孝子
外湯には籐椅子五脚風そよく	兵庫	小川孝子	さらり皮脱ぐ主なき庭の竹	兵庫	永沢達明
霊山の風の色して濃紫陽花	大阪	杉山千恵子	整はぬ心のままに梅雨に入る	兵庫	深尾眞理子
一年を折り返す彩濃紫陽花	兵庫	山之口倫子	有馬よく晴れて紫陽花日を返す	鳥取	前田 千
天辺に師の笑みのごと合歓の花	兵庫	西村正子	走り出す鹿の子に踊る日の斑かな	兵庫	武田優子
薫風に染まりし邸の明るかし	兵庫	平田 恵	一八や昔のやうに笑ひ合ふ	兵庫	中村恵美
蚊遣香の地下の句座まで届く館	大阪	徳岡美祢子	緑陰や庭の歳月椅子に添ひ	兵庫	吉村玲子
			汀子師の眼差いつも館涼し	香川	三宅久美子
			河鹿鳴く溪透明に暮れてゆく	兵庫	池田文子

見た目より逞しきかな羽脱鳥	大阪	河辺さち子	それぞれのそれぞれの幸夏の星	埼玉	土井洋子
百僧の声清らなり鑑真忌	奈良	豚々舎休庵	父の日や孝不孝問ひ独り酒	石川	伊東弥太郎
紫陽花や昨夜の名残の雨の粒	奈良	堀ノ内和夫	黒南風に葉音ざわめく休館日	兵庫	伊集院秀樹
そは胸の貴き尖りか蛍の夜	愛知	小野 薫	青芒葉先に風を遊ばせて	石川	辰巳葉流
フルートの音色奏でる若葉風	兵庫	足立朱麻	バンドナの移住者多し栗の花	兵庫	阿曾宏之
夕顔の咲きて整ふ迎へ花	兵庫	太平楽太郎	夏帽子旅行鞆に収まらず	兵庫	恵島祥一朗
藻の花の温泉街を散策す	愛媛	星月彩也華	パステルの揃ふ参道七変化	神奈川	小林 心
鳶のこゑをさまつてゐる梅雨入かな	三重	水越晴子	紫陽花に埋もれて地蔵笑ひをり	神奈川	平野孤舟
今年も又三瓶を訪はん合歓の花	兵庫	長安悦子	ぶつぶつとなぞらるるレコードの黴	神奈川	金子三奈乃
さやぐ葉も空へ溶け込む合歓の花	兵庫	二瓶美奈子	山刀研ぐところから竹伐会	兵庫	キートスばんじょうし
下ろし立て風になじめぬ麻暖簾	兵庫	伊藤秀子	風薫るわが師の句碑をたどる旅	神奈川	進藤剛至
雨ふむ青芝に散る星の宵	兵庫	雲山ひまり	石積みに嫗の拾ふ青き梅	東京	宮村土々
蕾さへグラジオオラスは天を突き	兵庫	道中義臣			
現世と分かつ楽屋の夏暖簾	兵庫	入谷千恵子			
青芝にゴルフボールのぼつねんと	兵庫	三木雅子			
ふる里へ寄付の送金梅雨に入る	兵庫	山崎渺美			
人くぐり風もくぐりし夏暖簾	兵庫	山口弘子			
花の名にてんやわんやの臯月句座	兵庫	大西美知子			
夢に逢ふ汀子先生明易し	兵庫	岩水ひとみ			
夏休みひとつ背伸びのカフェテラス	兵庫	福田光博			
五月雨傘さしかけられし御堂筋	兵庫	岩鼻絹子			
俳磚に日の斑のゆるる夏至夕べ	兵庫	中村澄子			
天上の香を降らせけり合歓の花	兵庫	藤井啓子			
仏灯かハザードランプか蛍火	兵庫	月 あんぬ			
梅雨空に園児手つなぐ交差点	兵庫	高市敦之			
長鳴きの野路子見守る梅仕事	神奈川	斉藤苑子			
覗き込むなき師の邸の梅雨の庭	新潟	安原 葉			
御田祭り聖餐のごと直会へ	兵庫	岡本やすし			
西空へ向けて合掌沖繩忌	和歌山	中島紀生			